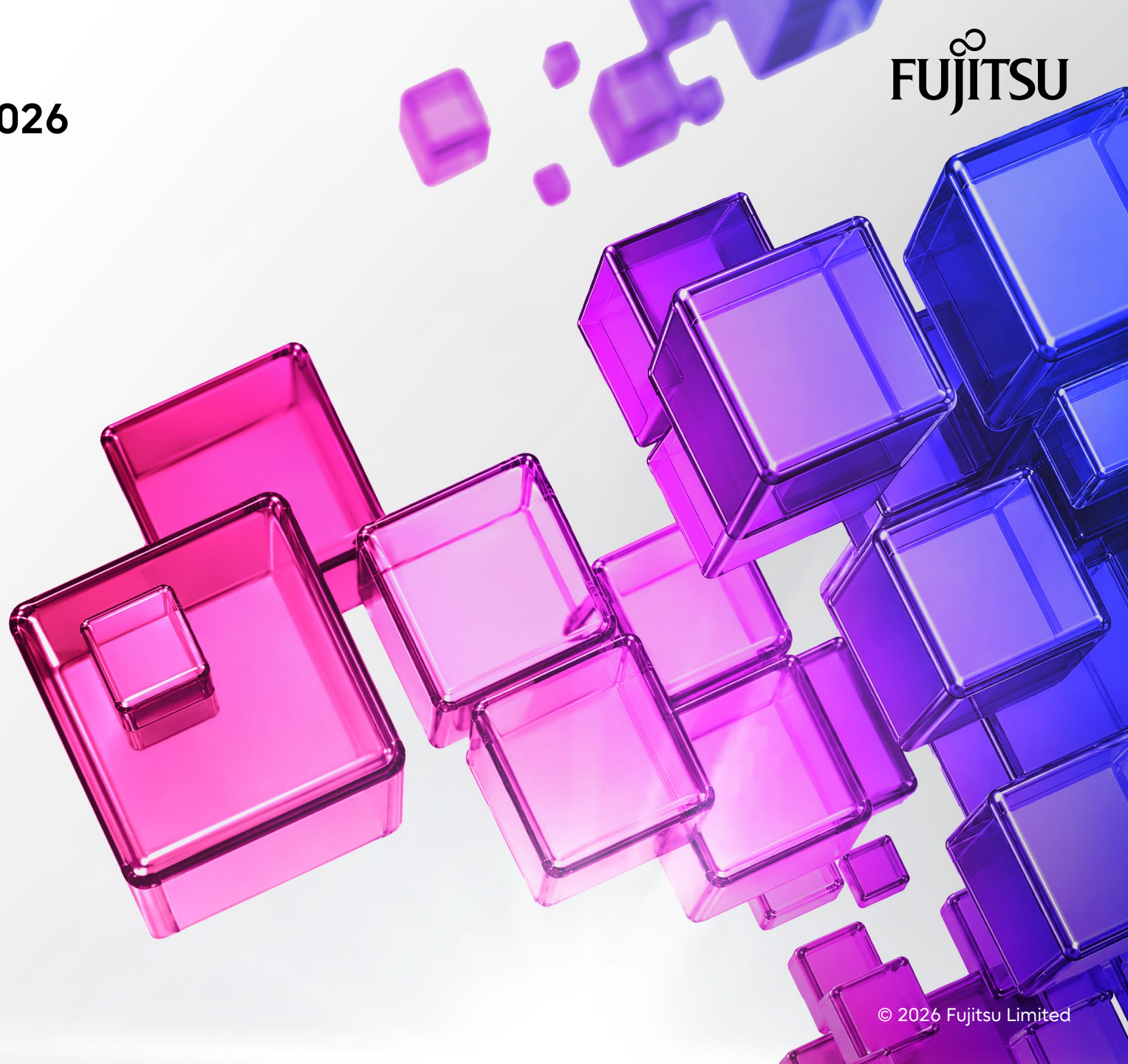


A-01

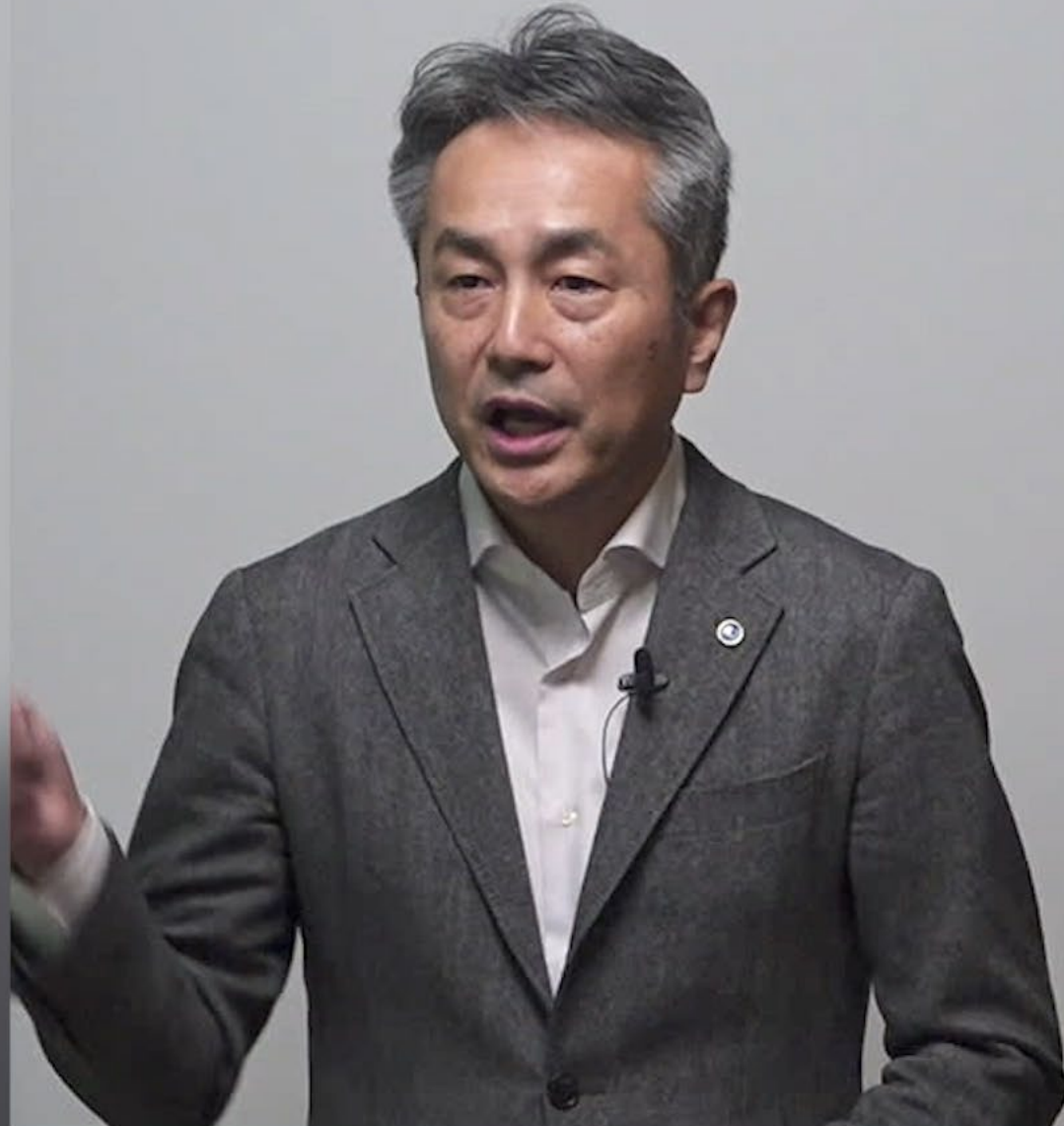
Fujitsu Experience Day 2026

FUJITSU

AIが変革する システム開発の今



富士通が挑むべき未解決領域



AI-Driven Software Development Platform



Turning Knowledge into Continuous Delivery Capability — 知見を、継続的な開発力へー

Customer Value

Time to Marketの短縮

品質向上

開発力の継続的な進化

技術変化への柔軟な対応

AI時代の持続的な競争力

知見を組織資産へ

Core
Capabilities

AI-Ready Engineering

AIが既存システムを理解できる状態を構築

Autonomous Development

要件定義から結合テストまで自律実行

Engineering Knowledge Foundation

顧客・富士通の知見を契約に基づき蓄積・標準化・再利用

業務ノウハウ

開発ノウハウ

設計思想

品質ナレッジ

Platform
Capabilities

Multi-Model Orchestration

最適なAIモデルを柔軟に選択・活用

Governance

セキュリティ・コンプライアンス・アクセス制御

Design Principles



AI Native



Knowledge-Driven



Multi-Model



Sovereignty

AI-Driven Software Development Platformの概要

富士通の研究所技術と業務知見を核に、複数のAIエージェントを協調させ、要件定義から結合テストまでを一気通貫に自動化するAIドリブン開発基盤



“Multi-layer Quality Control

暗黙知・手順・根拠を揃え、曖昧さや抜け漏れは自動でやり直させることで、設計品質を実務で使えるレベルに引き上げる仕組み



自律設計レイヤ（ReActループ）

観察→思考→行動を反復し、検索・調査→設計具体化→次の参照先特定までを自走

≫ 要件定義・設計エージェントの判断精度を底上げ



ガーディアンレイヤ（メタ認知チェック）

品質基準（根拠・一貫性・明確さ）でAIの思考と結論を監査。不足・曖昧・矛盾があれば「やり直し」を指示

≫ AIが陥りやすい「それっぽい回答」を正す



知識レイヤ（現場の作法を注入）

命名規則・例外運用・画面ID⇔コード対応など、現場の当たり前をガイド・ルールとして構造化し、検索インデックスと設計文脈に注

≫ 会社固有のシステム開発作法をAIが再現可能にする



情報アクセスレイヤ（大規模ドキュメント・コード理解）

特許出願中

大量ドキュメントや数百万のコードから、AIの思考に必要な部分のみを抽出し、要約・抜粋を行う

≫ 精度を落とさず大規模情報を扱えるようにする

展開ターゲットは「変化しつづけるシステム」

改修に多大なコストやリソースを恒常的に消費し、人手依存がボトルネックとなっているシステム
変更スピードが競争力を左右し、Time to Market改善がそのままビジネス価値に直結するシステム

継続改修が恒常化

法対応、商品・料金ロジック
更新、外部サービス連携

変更頻度が高く リリースが高速

月次リリース、アジャイルが
常態

長年の改修で巨大化・ 複雑化した資産

依存関係・独自仕様・
暗黙知が多い

監査・説明責任の 要求が高い

変更理由の
トレーサビリティが必要



金融



通信



小売



物流



製造

“AI-Ready Engineering × AIドリブン開発基盤

一気通貫のシステム開発自動化を実現する両輪



AIが迷わず判断できる状態をつくる
—資産理解・暗黙知・品質基準—

AIによる自律的な開発実行
—要件定義～結合テストの自動化—

Thank you

Contact :

AI Innovation Center
Fujitsu Limited

